



ミス日光コンテスト



ミス日光の高橋さん(右)と鈴木さん(左)

## そろいの浴衣でコンテスト

### ミス日光に

### 高橋さんと鈴木さん

日光納涼夏まつりの一環として「ミス日光コンテスト」が、八月三日、総合会館で行われました。ミス日光への応募者は三十三人あり、初めての試みとしては、予想をはるかに上回りました。コンテストは午後二時に始められ、日光納涼夏まつり実行委員会々長である星野市長のあいさつの後、ドン帳が上げられると、そろいの浴衣で出場者が一斉に登場。会場に集まった一千二百人の市民や観光客から、拍手が大きくわき上がりました。

コンテストの審査委員は、いずれも市外の人たちで、マスコミ関係者六人、化粧品関係者二人の八人が審査に当たりました。帯に番号札をつけた出場者は、一番から順々にセンターマイクに進み、番号と名前、年齢、職業、趣味または特技などの自己紹介をしてから、審査委員と一問一答。容姿、教養、言葉づかい、態度などをポイントに審査が進められました。三十三人の審査がすべて終わると、別室で、審査委員だけの最終

審査会が開かれました。

その間、アトラクションとして尾瀬ひかるショー、ハロナ・ポリネシアンショーを開催。

アトラクション終了後、清水審査委員長が厳正な審査の結果を、「出場者すべてをミス日光に選びたいほどです。審査は伯仲し、三十三人の中からミス日光を選ぶことは至難の技であります。しかし、どうしても選べたことなので、甲乙つけがたい娘さんばかりなのですが……」と、講評。

その結果、ミス日光第一位に、石屋町三九八 家事見習 高橋恵子さん(三〇)。ミス日光第二位に、中宮祠二四八二 銀行員 鈴木順子さん(二九)が選ばれました。

高橋さんと鈴木さんの頭上のクスマ玉が割れると、タスキ、賞状、トロフィーなどが各種団体から贈られ、ミス日光の誕生を祝福しました。

ミス日光に選ばれた高橋さんと鈴木さんには、スポンサーからハワイ、マニラ招待旅行、時計、電気製品、化粧品などの豪華賞品が数多く贈られました。

出場者全員には参加賞として、浴衣や帯などたくさん賞品が贈られ、ミス日光の推薦者にも推薦者賞が贈られました。

ミス日光の高橋さんと鈴木さんは、今後一年間、市内外の各種行事に出席して、日光市のホステス役として活躍されることになっていきます。

## 家庭の医療

### 打ち身・ねんざ

スポーツの秋。打ち身、ねんざは戸外での運動につきものです。たとえ競技中でも無理をしないで、すぐ手当てしましょう。

#### ◎手足のねんざ

ねんざは、関節を、その動く方向以外に無理に動かしたときに起こります。ねんざしたときは、患部を動かさないよう安静にして冷やします。手首やひじの場合は、三角きんなどで首からつって、患部が動かないように保護します。足首の場合は、すぐクツをぬがせませす。痛みがひどいときは無理にぬがせず、クツをハサミなどで切りとるとよいでしょう。

軽いねんざの場合は、冷やして痛みとはれがひいたら温湿布に変え、患部の血行をよくして関節組織の回復をはかります。痛みが強いとき、はれがひかないときは、患部を動かさないようにしてお近くの専門家へ。

#### ◎手足の打ち身

打撲でできたのは、普通一週間十日でひきますが、それでも痛むようなときは、やはりねんざと同じように、タオルなどの布を冷水に浸して、患部を冷やします。傷がある場合は、細菌の感染を防ぐためにも、まず傷の手当てをし、油紙などでおおってから冷湿布をしましょう。